

他人の利益をまず図ろう 吉田 忠雄

YKKの創業者

魚津商工会議所の初代会頭

経営哲学は「善の巡環」



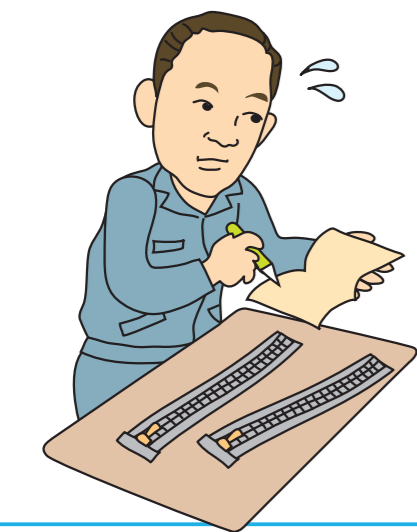
1908 (明治41) 年9月19日—1993 (平成5) 年7月3日

好奇心の旺盛な男の子

忠雄は下新川郡魚津町（現魚津市）の貧しい家に、3人兄弟の末っ子として生まれました。いつも野山を駆け巡って遊んでいましたが、小学校の成績は優秀でした。

分からないことは大人にじっくり尋ね、分かるまで引かない子どもでした。物事の奥深くまで知らないで済まない性格を母親は「ゴボウの根っこ」に例えました。

下中島尋常小学校を卒業したころの忠雄



東京で大きな商売がしたい

家が貧しかったので進学をあきらめ、小学校を卒業した後、兄が経営するゴム靴店を手伝いながら、東京の有名な学校の授業内容を取った本を手に入れて勉強しました。「東京で大きな商売をしたい」と考えていたので20歳のとき、貯めたお金で東京へ行き、入善町出身の人が経営する中国陶器の輸入販売店で修業することにしました。

やがて日本と中国の戦争が始まったので、中国との貿易はできなくなり、この店は商売をファスナーの販売に切り替えました。忠雄はファスナーについて一生懸命勉強しました。ところが不景気のためこの店が倒産してしまったのです。忠雄は店の主人に勧められ、ひとり立ちしてファスナー工場を経営することにしました。

空襲で工場が焼け、魚津で再出発

1934 (昭和9) 年、忠雄はサンエス商会という会社をつくり、別の会社で作られたファスナーの販売を始めました。従業員は社長の忠雄を含めて3人です。

当時のファスナーは品質が悪く、半分以上が不良品でした。忠雄は自分たちでファスナーを作ろうと1938 (昭和13) 年、東京の江戸川区に工場を建て、社名は「吉田工業」と改めました。2人の兄にも魚津から来てもらい、兄

弟で力を合わせて働きました。

忠雄の会社のファスナーは国内だけでなく、外国にもたくさん売れました。太平洋戦争の影響で金属部分の銅が使用禁止になったときは、忠雄の提案でアルミ合金を使うことにして乗り切りました。

しかし、工場は1945 (昭和20) 年の東京大空襲で焼け落ちてしまいました。忠雄は一からやり直すことにし、魚津に戻り工場を再建しました。



創業当時のサンエス商会



世界企業に成長し、平和に貢献

戦争が終わり、世の中が平和になると国内のファスナーの売れ行きは増えていきました。その勢いでアメリカへ輸出しようと考えましたが、日本で最も優れている吉田工業の製品でさえ、アメリカのものに比べると品質が劣り、値段も高いことに気づきました。当時のファスナーは、アメリカでは立派な機械で作られていましたが、日本では手作業で作られるのが当たり前だったのです。

そこで忠雄は、他社が手を出せなかった高価なアメリカ製のファスナー自動製造機を買い入れ、日本のファスナーの関係者を驚かせました。また、1955 (昭和30) 年には黒部市にも工場を建てました。この工場はファスナーの製品だけでなく、その工場ですべて自分の会社で作るという、日本で最も新しい工場にしました。

日本のファスナーのほとんどがこの工場で作られるようになり、また、「YKK」の名前で世界中の多くの人に使われるようになりました。

海外にも次々と工場を建て、現在では世界の71の国と地域でファスナーやアルミ建材 (サッシ) などの製造・販売を行っています。

海外に工場を造るときは、自分たちだけがもうけるのではなく、現地の人々と利益を分け合うようにしているのが、日本が世界の国と仲良くしていくことに役立っています。



ファスナーの歯を自動的に植え付けられる高速自動植付機 (チェーンマシン)



工場で作業着姿の忠雄



完成当時の黒部工場

夢や志をかなえたポイント

- ・分からないことは、分かるまで尋ねる
- ・自立し、自分の力で道を切り拓く
- ・目先の利益だけを求めない

- 1908 (明治41) 0歳
下新川郡魚津町に生まれる
- 1934 (昭和9) 26歳
サンエス商会を創業
- 1951 (昭和26) 43歳
最新鋭のファスナー生産工場を完成させる
- 1955 (昭和30) 47歳
黒部工場稼働
- 1959 (昭和34) 51歳
大河内記念賞を受賞
- 1960 (昭和35) 52歳
紫綬褒章を受賞
- 1967 (昭和42) 59歳
吉田育英会を創設
- 1971 (昭和46) 63歳
オランダ・スネーク市名誉市民に選ばれる
- 1978 (昭和53) 70歳
勲二等瑞宝章を受賞
- 1981 (昭和56) 73歳
「財界」経営者賞、第3回毎日経済人賞を受賞
- 1993 (平成5) 84歳
亡くなる

独自の経営哲学「善の巡環」

吉田忠雄が考えだし、経営に生かした言葉です。自分の目先だけの利益を求めるとは、関係する周りの人にも利益があるようにすれば、やがてそれが自分にも返ってくるという考え方で、アメリカの鉄鋼王といわれたカーネギーの言葉から学んだものです。この考えがあったからこそ、事業が世界の人々に受け入れられたといえます。



書「善の巡環」

豆知識 忠雄は魚津町議会議員や魚津商工会議所初代会頭なども務め、黒部市と魚津市の名誉市民に選ばれています。